

新刊

# 定家本源氏物語 若紫

●予約募集中！ 2020年3月下旬刊行予定 ISBN978-4-8406-9770-5

【監修】大河内元冬 【解題】藤本孝一

●B5判上製／貼函入／約190頁／定価（本体25,000円＋税）

既刊

【重要文化財】

# 定家本源氏物語 行幸・早蕨

●好評発売中！ 2018年1月刊行 ISBN978-4-8406-9765-1

【編集・解題】藤本孝一

●B5判上製／貼函入／186頁／定価（本体28,000円＋税）

これまで詳細不明だった定家本二帖の全貌を、高精細原寸カラー版で初公開。収録原本は、『行幸』（国所蔵・文化庁保管）、『早蕨』（個人蔵）。影印本文に加え、詳細な解題を収載する。また解題には、これまで未紹介の参考史料として、藤原定家による大原野行幸の儀式次第書『大原野行幸次第』（個人蔵）の全文翻刻を付載。



## 新天理図書館善本叢書 第3期 源氏物語 池田本 全10巻 【重要文化財】

●好評発売中！



【原本所蔵・編集】天理図書館 【解題】岡嶋偉久子

定家本（青表紙本）系統の諸本中、最重要古写本の全貌を初公開。52巻のうち48巻が鎌倉末写の基幹巻。基幹巻の本文は全て「青表紙本」で揃っており、鎌倉写本として他に類例がない。基幹巻のうち11巻に「奥入」あり、そのうち8巻は本文と同筆。

●A5判上製／貼函入／平均606頁／揃定価（本体344,000円＋税）

※各巻分売可 ISBN978-4-8406-9593-0（セット）

## 尾州家河内本源氏物語 全10巻 【重要文化財】

●好評発売中！



【原本所蔵・監修】名古屋市蓬左文庫 【解題】岡嶋偉久子

鎌倉時代に源光行・親行父子による源氏物語本文の研究・校訂によって作成された河内本の最古写本として伝わり、54帖が揃った源氏物語の写本としても現存最古の一つ。最新の原本調査により源親行稿本の可能性が指摘される重要写本。

●B5判上製／貼函入／平均450頁／揃定価（本体280,000円＋税）

※各巻分売可 ISBN 978-4-8406-9340-0（セット）

驚愕の新出資料！

# 定家本 源氏物語 「若紫」

内容見本

高精細原寸カラー版で初公開！  
多くのメディアで大々的に報道された  
新出定家本の全貌が明らかに！

【監修】大河内元冬  
【解題】藤本孝一

2020年3月下旬刊行予定

●B5判上製／貼函入／約190頁

●定価（本体二五、〇〇〇円＋税）

予約募集中！



※定家本源氏物語「若紫」原本の姿

八木書店  
YAGI BOOK STORE LTD.



八木書店  
YAGI BOOK STORE LTD.

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-8 ●E-mail pub@books-yagi.co.jp

●TEL 03-3291-2961 [営業] 03-3291-2969 [編集] ●FAX 03-3291-6300

●Web <https://catalogue.books-yagi.co.jp/>

[2020.2.pp.]

●鎌倉時代の藤原定家（一一六二～一二四一）が直接監督して書写された定家本『源氏物語』は、これまで現存するのが『花散里』『行幸』『柏木』『早蕨』の僅か四巻（全て重要文化財）のみとされていた。



若紫（旧表紙）

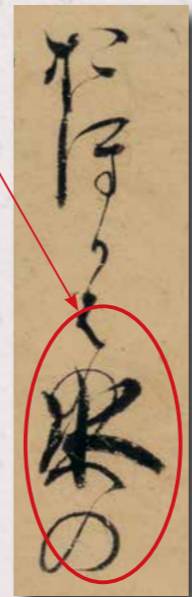
●本書「あとがき」より

平成二十九年一月に『定家本源氏物語 行幸・早蕨』を八木書店から出版し、平成三十年十月三十一日に官報告示により、『行幸』が重要文化財に指定された。同書出版の余韻が冷めやらぬ平成三十一年四月十五日に、霞会館常務理事水野勝之氏と三河吉田藩主家の大河内元冬氏とが、冷泉家時雨亭文庫を訪問された。大河内家に伝来する藤原定家卿の『若紫』を見てほしいとの件で、本帖を持参された。冷泉ご夫妻と一緒に拝見した。

新表紙を開けた一瞬、前田尊経閣文庫所蔵の『花散里』『柏木』の帖と同じ装訂の表紙が目に見え込んできた。丁をめくりながら紙質を透過光で見ると、繊維の漉き方が平安時代・鎌倉時代の溜漉の製法である。本文・奥入等の校訂箇所も定家卿の筆跡そのものであった。こんなことが起こること、只々驚くばかりであった。（藤本孝一）

●二〇一九年、大河内家に伝わった『若紫』が新たに定家本として確認され、今後の源氏物語研究へ資する新出貴重資料として紹介された。

●このたび刊行の高精細原寸カラー版によって、その詳細が調査可能となる。

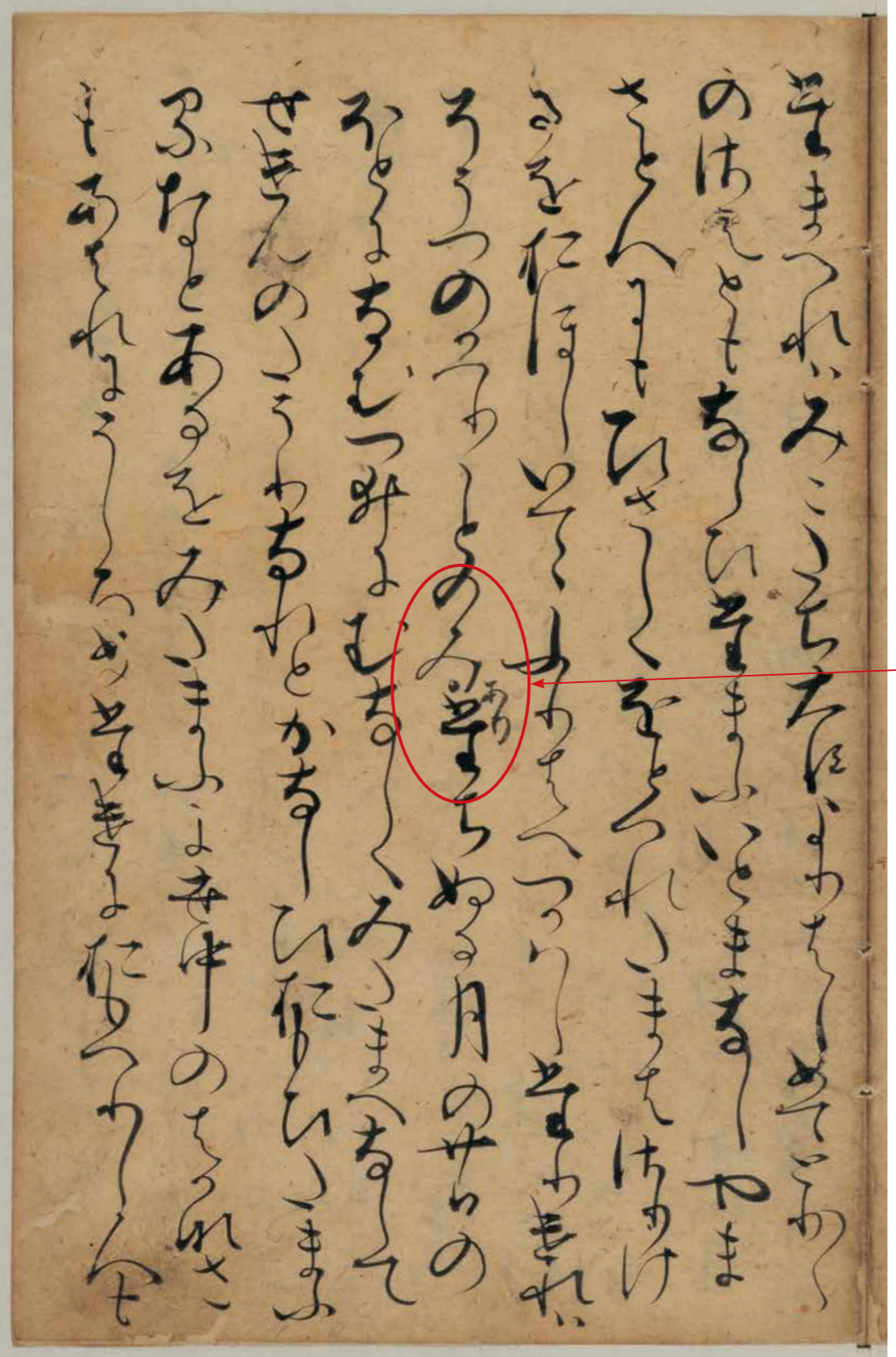


●定家筆と思われる重ね書き（63ウ）

「奥入」の「ゆほひか」で、「のへ」の「へ」をなぞって、さらに、「のへ」の上から「水」と墨痕あざやかに書いている。この箇所が定家本に見られる定家自身の校訂と思われる。（本書「解題」より）

本文  
見本

●定家筆と思われる補入 補入「○あり」は、青墨が使われている。青墨は貴族が用いる墨のため、この補入は定家によるものと想定される。（本書「解題」より）



【原本原寸】

若紫（40オ）

\*このリーフレットの図版は宣伝用の簡易印刷です。